

事業報告書

1 支援団体名	ため池シンポジウム in 北部九州実行委員会								
2 事業名称	ため池シンポジウム in 北部九州								
3 支援金額	250,000円								
4 実施日時	8/7(金) 13:30~17:00 8/8(土) 9:00~14:00								
5 実施場所	8/7(金) 福岡大学 8/8(土) バスツアー								
6 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>(1) 事業の目的:</p> <p>農業をめぐる状況の変化、産業構造の変化、地域の暮らしの変化とともに、現在ため池の維持が難しくなっている。ため池は、しかし、灌漑用に用いられるだけでなく、地域の水途(みずみち)の要となっていたり、生態系上も大切な場であったり、ヒートアイランド現象を緩和するものであったり、大雨を一時貯留する施設であったりと、不可視の重要な働きをしている。</p> <p>このような多面的機能を持つ、不文の歴史的存在の価値評価は、既存の客観科学のみでは行い得ない。単なる経済効果の計算だけでは解決できない社会資本の総合的な存在価値をどう評価して守ってゆけばよいかということ北部九州の事例を舞台にみんなで共有し話し合い、体験するシンポジウムを開催すること。</p> <p>(2) 事業の内容:ため池シンポジウム in 北部九州開催</p> <p>8月7日 13:00~ シンポジウム会場:福岡大学(福岡市城南区七隈8丁目19-1)</p> <p>(1)基調講演弥生時代の貯水施設と、ため池の出現【40分】</p> <p>(2)池溝報告ため池・疏水を語る【120分12分×9発表】</p> <p>8月8日(エクスカージョン)元岡発掘現場⇒伊都国歴史博物館⇒アザメ瀬⇒福岡空港</p> <p>(事業実施効果)</p> <p>稲作の伝来とともに始まる北部九州の水と私たちのかかわりの初めから「ため池」という技術と、築造に至る社会のパワーと、維持管理をしつつ水の恵みとリスクに対して祈りの場でもあった遺跡の発見について基調講演をいただき、その後古墳時代の疏水・ため池→奈良時代→現代の課題について共有をすることができ、さらにこれからの「ため池・疏水」について話し合うことができた。</p> <p>「水をため暮らしに活用する」ということが、利水、治水、環境の意味を維持しながら、管理をされる地域の社会システムについて可能性が話し合われた。</p> <p>バスツアーでは、福岡市西区元岡の遺跡を実際に見学し、今後重要文化財に指定されるであろう出土品などにも間近に触れることができた。アザメの瀬では自然再生のスケールの大きさと、地域の住民の方々のかかわりと喜びの姿に触れることができた。</p> <p>シンポジウムの座だけではなく、現地の空間と地形の中での位置を体感することができた。</p>								
7 参加内訳	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">総人数</td> <td style="text-align: right;">97名</td> </tr> <tr> <td>(1) 主催者参加</td> <td style="text-align: right;">7名</td> </tr> <tr> <td>(2) 日本人参加((1)を除く)</td> <td style="text-align: right;">90名</td> </tr> <tr> <td>(3) 外国人参加((1)を除く)</td> <td style="text-align: right;">名</td> </tr> </table>	総人数	97名	(1) 主催者参加	7名	(2) 日本人参加((1)を除く)	90名	(3) 外国人参加((1)を除く)	名
総人数	97名								
(1) 主催者参加	7名								
(2) 日本人参加((1)を除く)	90名								
(3) 外国人参加((1)を除く)	名								
8 今後の方針	<p>平成22年度は佐賀県</p> <p>平成23年度は大分県で、ため池シンポジウムの開催を予定</p>								

基調講演



シンポジウム参加者



韓人池報告



コモ池報告



弥生時代のため池遺跡見学



アザメの瀬見学

